

# Blankがグランドオープン

住宅、オフィス、複合施設などさまざまなリノベーション事業を展開し、業界をけん引する㈱エコーラ（仙台市、百田好徳代表取締役）。同社がucompany(株)（東京都）と連携して取り組む仙台大町プロジェクトが、いよいよグランドオープンする。

仙台大町プロジェクト「Blank」（ブランク）が6月1日にグランドオープンを迎える。新型コロナ禍という時代の変革期に求められる住まいと働き方に対して、㈱エコーラが築50年ほどのビルをフルリノベーションして発信する「多様性」への挑戦だ。

場所は、仙台市のメインストリートの一つ、青葉通沿い。仙台市地下鉄東西線大町西公園駅徒歩1分の好立地。御譜代町看板塔（伊

達やぐら）の東隣に位置する。

「Blank」には、余白が多い場所という意味を込める。建物内にはホテルやアパート、カフェ、オフィスなどの機能があり、自分のライフスタイルに合わせて自由に選択し、使うことができる。また、利用者同士が交流し、シナジーを生み出す場になることも期待している。

2階がシェアオフィスやレンタルスペースなどを備えたシェアラウンジ、ランドリーなど。3階が10人程度まで利用できるオフィス、4階が長期滞在も可能なデザイン性の高いホテル3部屋、5〜11階がトイレや水回り設備が整ったSOHO（ソーホー）と賃貸マンション、屋上が仙台城跡方面が一望できる、グリーンを配置したテラスガーデン、地



下1階が約80平方メートルの多目的イベントスペースとなる。

通勤という概念を取り払う職住一体での使い方に加え、招いたゲストを宿泊させたり、シェアラウンジで打ち合わせをしたり、カフェからのケータリングで食事を取ることなども可能だ。もちろん、仙台駅や市役所などは徒歩圏で、地下鉄を利用して、荒井、八木山、泉中央や富沢の各方面へ容易にアクセスでき、ビジネスの幅も広がる。

また、㈱エコーラが運営する、個人やフリーランスを主な対象にした「THE6」（青葉区春日町）、



いう追い風も。新型コロナの影響でホテルだけはオープン日が未定だが、仙台でのマイクロツーリズムの需要も見込めるものと準備を進めている。内装はデザイン性が高く、他との差別化を図ることができる。

地下1階の多目的イベントスペースもニーズが高い。収容人数30人。会議、イベントやパーティー、展示、講演会やワークショップなど、さまざまな使い方が可能で、料金は1時間5500円。近隣のオフィスからの問い合わせもあるという。また、眺望の良い屋上のテラスガーデンでも、イベント利用などを検討している。

クリエイティブなビジネスマンや成長段階の起業家、仙台からさまざまな物事を発信したいと考えているクリエイターなどの活動の場となることを目指す「Blank」。東北の価値を発信する仙台が、さらに求心力を強めていくに違いない。

百田代表取締役は、「建築・不動産業界としてもSDGs（持続可能な開発目標）が求められています。既存ストックの活用は、その観点からも重要です。今後、SDGsに貢献していきたい」と述べた。

## 建物で「人」と「働く」を一体化する

2〜3人規模の企業などを主な対象にした「TNER」（トナー、青葉区二日町）と「Blank」の契約者は、相互利用が可能。そのうえ、同社が業務提携する㈱リ

ビタのシェアオフィス「12SHI NJUKU」（12新宿、東京都新宿区）は、「THE6」と「TNER」の契約者が利用可能となっている。

の一体化を、建物として目指しました。ソフト部分は、テレビ会議システムなどのITやIoTでカバーしていきます。不動産賃貸業は、住むだけで収入を得られる時代から、いかに付加価値を入居者に提供していくかが問われています」と述べる。

㈱エコーラの百田代表取締役は「新型コロナ禍という時代の変わり目にあつて、さまざまな分野でIT化やDXが加速しています。改修やリノベーションは人の手が必要なアナログ的なものです。その上で、新築では既に始まっています。建物の形も用途も違う既存のストックを、世の中が求めるものに形を変えて提案していくことが求められます。今回の複合施設「Blank」は、多様性に対するリノベーションを用いた挑戦です。人と働くということ



百田好徳代表取締役

もう一つが、ホテル。新型コロナの影響でインバウンド（訪日外国人）利用はしばらく見込めないが、「Blank」利用者のゲストやビジネス関係者の長期利用など、ニーズは高いという。また、付近にビジネスホテルが少ないと